

玄界小・中学校 学校評価

学校重点目標

- 新学習指導要領へのスムーズな移行
 - ・ 授業時間の確保
 - ・ 評価活動の充実
 - ・ 教材研究の充実
- 小中連携教育の推進
 - ・ 9年間を見通したカリキュラムの作成とキャリア教育の実践
 - ・ 小中の指導の特性を学びあう教師集団の育成
- 玄界島の地域教材の活用

学校評価指標

学校評価指標	自己評価	学校評価
○ 教育課程・学修指導・生徒指導	B	B
① 小中連携教育の実践（小5・小6）年間30時間実施	A	
② 児童生徒の実態の共有化を図る連絡会の実施（学期に1回）	B	
③ 家庭学習時間のグラフ化による啓発（毎月）	C	
④ データベースを利用した学習記録・指導記録等の作成	B	
○ 保護者・地域との連携	B	B
① さまざまな機会をとらえて、具体的な進行状況の説明	B	
② 学校便りの発行（毎月）	B	
③ 玄界観光ガイドの充実（改訂版の発行）	C	
○ 小中連携教育	B	B
① 9年間を見通した目標，計画，内容を含む指導計画の立案と実施	B	
○ 研修の充実	B	B
① 講師を招聘しての公開授業	C	
② 研究テーマを据えた公開授業	B	
③ 夏季休業中に5日間の集中校内研修の実施	B	

自己評価の根拠

○ 教育課程・学修指導・生徒指導

中学校教員が、小学校で授業した時数

小3・4	49時間	
小5	39時間	
小6	40時間	合計128時間

月1回の生徒指導全体会を実施

その中で、全児童生徒について、生活面・学習面での報告をさせ、実態の共有化が図れた家庭学習時間のグラフ化はできなかった。

家庭学習時間のアンケートを実施し、実態把握に努めた。

「家庭学習のしおり」を作成し、啓発活動を行った。

保護者アンケート⑧ 小学校 2.7→3.1 中学校 2.1→2.4

教師アンケート 小学校 3.0→3.4 中学校 3.14→3.00

児童生徒一人一人の学習状況を記録するデータベース(個人カルテ)を作成した。1学期終わりに、その個人カルテによる学習状況の報告会を行い、共有化を図った。現在、次年度へ向けた記録を行っているところである。新しい担任にとって参考になる記録となるよう心がけている。

なお、学力実態調査・学力定着度調査などの結果は、福岡市内の平均値を概ね同じかそれ以上かの結果である。但し、本校は対象人員が少なく、一人一人の状況で結果が大きく左右される。

○ 保護者・地域との連携

PTA総会、PTA運営委員会をはじめ、いろいろな場面で、現在の学校の様子やこれからの学校教育について、報告と説明を行った。

学校だよりを、4月から3月までに、10号発行した。校長から、学校教育のめざすものやねがいを掲載した。また、全教員が1回は執筆し、児童生徒の様子などを伝えた。

玄界観光ガイドの修正版を作成し、ベイサイドでの販売学習などの機会をとらえ、配布した。

玄界観光ガイドの改訂に向けて、清書まではたどり着かなかったが、資料の収集などの準備はできている。

保護者アンケート①② 教師アンケート1 学校経営 参照

○ 小中連携教育

児童生徒の9年間の発達段階をふまえた年間指導計画の作成に取り組んでいる。4月当初は、小学校・中学校それぞれの指導計画であったが、夏季休業中に修正を行った。

○ 研修の充実

校内での公開授業を全教員1回は、実施できた。その授業の中で、「子どもたちの表現力を高める指導のあり方」を柱にして、実施後反省会を行った。また、事前に、校長より授業内容について指導を入れ、教職員の指導力向上に向けた取り組みを行った。しかし、外部講師の招聘は、できなかった。

夏季休業中、8月23日(月)～27日(金)間での期間、教育センター・姪浜中学校を会場として、校内研修を行った。

今後の取り組み

○ 教育課程・学修指導・生徒指導

平成23年度より小学校が、平成24年度より中学校が、新教育課程が完全に実施される。新学習指導要領の目標や内容を達成できるよう、教材の整備・教材研究に本年度も努めてきたが、次年度以降も、努力していく。

中学校教員が、小学校で授業する回数を増加させるために、年間一人20～30時間計画するよう指示している。その授業を小学校のカリキュラムに位置づけて、4月から年間を通して実施できるように計画する。

また、そのために小中の教員の話し合いの時間を確保する。木曜日の6時間目をそのための時間と予定している。中学校では、この時間を確保するために、毎朝10分間の帯時間を作って、10分×5日間=50分として、授業時間にカウントする。その内容は、その週の学習内容の定着を図ることとする。

さらに、中学校教員が、小学校で授業することにより、小学校の教員を3・4年生の複式学級での授業に回し、複式授業の減少へつなげる。

個人カルテは、本年度急遽作成したために、記録としては残すことができたが、その内容を活用するところまではできなかった。最低学期に1回は、記録しなおす機会を作り、活用できるようにする。

○ 保護者・地域との連携

次年度以降も、本年度同様管理職より、機会をとらえて学校説明を行っていく。

学校だよりの発行回数は、これ以上増やすことは無理があるが、子どもたちの感想などを取り入れ、より学校の状況がわかりやすいものへとしていく。

学校だよりで、新しく赴任した教職員の紹介を充実させる。

玄界観光ガイドの改訂を行う予定である。

○ 小中連携教育

児童生徒の発達段階に応じた、年間指導計画を作成するために、校務分掌の見直しを行い、小中学校の教員が相談して計画・実施できる環境を整える予定である。

○ 研修の充実

来年度は、11月11日に、九州へき地教育研究大会が、本校で行われることをふまえ、校内研修の充実を図る。

その他

保護者アンケート⑦⑧⑨⑩・教師アンケート2教育課程・学習指導の結果にずれがある。これは、教員が、学校現場で児童生徒の様子を観察し、学級指導の中で感じたことと、保護者が、家庭や地域で見る実態とのずれであると考えられる。今後は、子どもたちが、学校現場でも地域でも、家庭でも同じように行動するように指導を行うと共に、家庭・地域との共通理解と実践に向けて取り組む課題であると考えられる。